

## 「チュラロンコーン大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学法学部5年 炭井紗也佳

## ①学習成果

## ・留学について

元々留学に関しては意欲的だったが、更に熱意は高まったと思う。また、留学中語学のみに勉強の焦点を当てるのでは勿体ないと感じた。折角日本とは異なる授業やプログラムを提供してくれる大学に通えるなら、日本では学べない内容に対してフォーカスすべきだと思う。

## ・国際理解に対して

その国の事を本当に理解しようと思えば、何に付けても“日本だったら”という比較をするのではなく、その国の文化や習慣をそのまま受け入れようと試みるべきだと考えた。また、言語をなるべく早く習得して使用することで、その国のことを根本から理解しようとする姿勢を見せることが重要だと感じた。なぜなら、言語はその国の文化等を象徴し、基礎づけるものだと思ったためである。実際タイにおいて授業で学習した単語や文章を極力使うようにしたところ、タイの人々は英語を使う時より笑顔で良いように対応してくれたように思う。

## ・大学での学習について

大学で学ぶことを単なる「学習」で終わってしまうのではなく、卒業後実際に使用できるレベルにまで引き上げるべきだと感じた。特に、今回交流先が日本語学科であり、私たちが交流した多くの学科生が第3・4外国語まで日常レベル以上に習得し、将来その専門性を生かせるような職に就くと話していたため、自分自身が今学習している内容を振り返る良いきっかけになった。

## ・次の留学について

今回の派遣直後に予定しているイギリスへの交換留学は、アジア圏のタイとはまた全く異なる英語圏であり、文化や言語も全く別物であるため、こういった違いがあるのか更なる興味が湧いた。また、上記に述べたように、英語だけでなく学習できる内容を実務で生かせるレベルまで習得できたらと計画している。

## ②海外での経験

今まで私が訪問経験のある国は全て英語が最低限は通用する国だったため、今回英語があまり浸透していないタイではその点で非常に苦労した。そのこともあり、その国の言葉でコミュニケーションが取れることの重要性を一層感じた。また、タイが日本のポップカルチャー等の影響を大きく受けている一方、日本ではそこまでタイ文化が広まっていない。そのため、タイの学生から日本における有名なタイ文化について聞かれた際、全く答えられなかった事が恥ずかしく、また、申し訳なく感じられた。少なくとも、交流するつもりならばお互いの文化を事前にもっと理解しておく必要があると感じた。

また、その国の文化を象徴するものの1つでもある食文化は、その国に適応できるかどうかははっきり示す指針になると思った。

## ③プログラム内容

現地において向こうの先生方には幾つかお伝えしたが、英語で行われる授業を他にも聞いてみたかった。自由時間や学習計画のバランスについては良かった。また、授業やプログラム外でも昼休みや休日にタイの学生と交流できる機会が沢山あり、その事は刺激的で非常に良かったと思う。タイ側で組んでくださるバンコク市内見学についてはワット・ポー等有名な寺院に回る事ができれば更に魅力的だった。

## ④進路への影響

上に述べたように、学科の特色もあると思うが第3以上の外国語を取得する学生が多く、第2外国語止まりの私は大きく刺激を受けた。機会があれば次の留学中もしくは就職後に英語以外の言語を実務レベルにまで習得したいと考えるようになった。また、チュラロンコーン大学に留学中の日本人学生から、今後タイは発展してくるからこの国を選択したという話を聞き、やはりこれからは更なる関心をアジア等新興国に向けておく必要があるということも感じた。